

正義のヒーローとは

弘前大学教育学部附属小学校

林 大 晴

弱い人でもかつこいい。その理由は、どれだけ弱くても、自分が傷つく事を覚悟すればだれだって相手を助ける事が出来るからです。

老若男女、だれもが知っている国民的ヒーローキャラクターの「アンパンマン」がそうです。なぜなら、自分の力が減る事が分かっていても、目の前の飢えた空腹の者に自分の顔であるあんパンをちぎって与える事が出来るからです。

この本の作者、やなせたかしさんは、戦争を体験した中で、一晩中眼れなかつたり、どろの中を転げ回っていた事は、休む事で回復したけれど、空腹だけはたえられず、一番つらい思いをしたそうです。その経験から、悪者をたおすヒーローより、飢えて苦しむ人を助けるヒーローを作りたいと考えました。

やなせさんは、五十四才の時に、アンパンマンの元になる本を書きました。大人が子供目線で見たら、「顔をけずるのはざんこくだ」と言わされました。それでも、大人にも子供に

もみんなに愛されるヒーローを書き続けると、子供には人気が出ました。そして、子供向けの作品を作るために生まれきたのかもしれないと思いつが付くまでの苦労や思いが書かれた本です。

以前、ニュースで、ふみ切りをわたろうとした人が、電車にひかれそうになつて、その人を助けようとしたけいさつ官が亡くなつてしまつという事がありました。ふみ切りをわたらうとした人が命の危険にさらされた時に、自らの危険を顧みず、助けにはいられなかつたのだと思います。これがやなせさんが考へてゐる本当の正義なのです。もし、ぼくの目の前で命の危険にさらされた人がいたら、助けられるかどうか分かりません。その理由は、自分の身を守る事が出来ないのに、相手の事を助ける事が出来ないと思つたからです。ぼくがこの本を手に取つたきっかけでもある、本の題名の、「何のために生まれてきたの？」という問い合わせ。この事について考えてみたいと思い、読んでみる事にしました。この答え

は、まだ職業についてないし、十年しか生きていないので今はまだ分かりませんでした。これから先、将来の夢である学校の先生になるために、自分の身の回りの整理整頓や、勉強

をしつかりやつて、だれかの役に立ちたいです。そして、何のために生まれてきたのかを考えられるような人間になりました。